

小川徳雄・永坂鉄夫 著

## 『英語医学用語——その語源をたどる——』

医療関係者向けに、英語医学用語を語源から説明する用語集。見出しとなる英語医学用語がアルファベット順に並べられ、各語に日本語の意味が与えられ、ラテン語・ギリシア語に遡る語源と派生語・関連語が示される。日本語の用語が西欧語用語と一致していない場合や人名に基づく用語の場合には、その説明も加えられる。さらに、特徴ある用語については補足説明を行なう 105 のコラムが挿入されている。

コラムには「適応、順応、順化、訓化などの使い分け」「血友病は誤訳だよ」「症候群の原意がずれた」「区別が大切 typhus と typhoid」のような言葉の使い方に関するものや、「接尾辞 -ism と -ismus の違い」「無音の p (pn, ps, pt)」に注意」「非語源的な音添加とは?」「英語借入のラテン語 c の発音」などの言語的な問題を論じるもの、「アキレス腱命名物語」「消えつつある田原結節」「ダウン症候群は冠名用語か」などの発見者や命名者から語源を扱うもの、あるいは差別用語とされる語の説明などがあり、用語を並べた無機質な用語集とは一線を画する構成になっている。

語源や冠名用語を扱うという性格上、コラムの一部は歴史エピソードとして読むことができる。上記以外にも下記のような医史学に関連するコラムがある。

「生理学者 Guyton と S-A syndrome」  
 「高峰讓吉 (アドレナリン) 対 Abel (エピネフリン)」  
 「アンモニア・アンモン角 (海馬)・アンモナイト」  
 「術語 anesthesia 誕生秘話」  
 「プロカ野発見の優先権者は誰か」  
 「痛風は内の風、破傷風は外の風なり」

「解剖学用語に多い古代住居の間取りの流用」  
 「バルトリン腺の発見者は誰か」  
 「体液病理学説の影は医学用語に色濃く残る」  
 「お手つきの冠名用語」  
 「ブラウン・セカール症候群の名祖は一人」  
 「医学関係諸団体の紋章は caduceus?」  
 「帝王切開による出産は古代ローマでも可能だったか」  
 「音訳固有名詞は噴飯もの」  
 「キニーネの原料の kina に関わる逸話」  
 「用語コンプレックスの乱用」  
 「呼称も謂われも多彩なコンドーム」  
 「烏口突起の謂われ」  
 「ダイエットは喰えない」  
 「digitalis キツネノテブクロ物語」  
 「心電図はなぜ P 波から始まるのか?」  
 「日本古来の病名代表、…風と…気」  
 「熱中症と熱射病は同じか否か」  
 「近代解剖学の創始者ヴェサリウスと無名とされた骨や血管」  
 「lepra 「レプラ」は差別用語扱い」  
 「蒙古症は人種差別的な用語」  
 「ケルスの四徴候 Celsus' quadrilateral」  
 「二人の Sylvius シルヴィウス」  
 「交感神経 sympathetic [s] の由来」  
 「梅毒 syphilis の語源」  
 「視床 thalamus の由来」  
 「グレーヴズ病とバセドウ病の葛藤」  
 「ビタミンの発見者は誰か?」

(澤井 直)

[東京教学社, 〒112-0002 東京都文京区小石川  
 3-10-5, TEL. 03 (3868) 2405, B5 判, 616 頁,  
 5,000 円+税]